

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・関係機関と連携し、より地域のニーズを捉えた企画を考えていけると良い。	A	B
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。	・ニーズを共有しながら3歳以上の未就学児を対象とした企画等をさらに実施できると良い。	A	B
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。	・テーマ別交流会やパパスクール等企画の詳細な内容の見直しやPRの仕方を考えていけると良い。	A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。	・地域での子育て資源の充実のため、出向いてバックアップできる形がとれると良い。	B	B
☆拠点に来館が困難に方々に向けての対応がなされている。		B	B
評価の理由(法人)			
<p>【拠点利用者アンケート】【H30年度とことこ事業報告】→別紙1にて提出 【お外で遊ぼう実績報告】 H29年年度 51回開催460組参加(大人480人・子ども510人) H30年度 41回開催419組参加(大人432人・子ども520人) 【アピタ「金沢区気軽に子育て相談」実績報告】 H29年度 123日 1,465組(大人1,651人・子ども1,686人) 相談472件 H30年度 149日 1,720組(大人1,882人・子ども2,028人) 相談628件 【テーマ別語り合いイベントH30年度実績】 多胎ママ交流会(12回58組)多文化ママ交流会(10回16組)はじめてのとことこ(12回93組)きょうだい児の子育てについて語ろう(4回23組) 【地域子育て支援事業アンケート】→別紙2にて提出 ・「拠点を知っているか」…知っている93%…①知っており利用した52% ②知っておりこれから利用12% ③知っているが利用する予定はない29% ・「どこで拠点を知ったか」…①こんにちは赤ちゃん訪問33% ②母子手帳交付時29% ③母親教室・プレパパプレママ教室24% ④友人等から聞いて23% ⑤金沢区子育て情報冊子「キラキラMAP」17% ・「拠点を利用した感想」…①満足39% ②やや満足26% ③ふつう30% ④やや不満5% ・「拠点の利用目的は何か」…①親子で遊ぶ76% ②子育て情報を入手する37% ③親と子どもの友達づくり30% ④育児講座や交流会に参加する16% ⑤育児相談12% ・「出張とことこを知っているか」…知っている50%…①知っており利用したことがある12% ②知っておりこれから利用する予定がある9% ③知っているが利用する予定はない29% ・「拠点を利用しない理由」…①遠い38% ②子どもを連れていくのが大変23% ③利用する必要性を感じない15%</p>			
<p>①【利用者の状況に応じた丁寧な関わりによる雰囲気づくり】 ・運営法人が変更になったことへの不安を感じている利用者には、あいさつや職員からの声かけ、意見や要望への誠意をこめた対応等を通じて距離を縮める等、特に丁寧な対応を心がけ、関係作りを築いていった。 ・特に初来館者に対し、声かけや丁寧な対応により緊張感がほぐれていき、安心して過ごせるように関わる等、居場所として感じられるように心がけている。また、日々の利用者との距離感を大切にしている。 ②【多様性を認め合うひろば・一方で対象を絞った居場所づくり】 ・0歳～の親子、父親、祖父母世代、学生、外国籍の方、多様な方々が集う場所であることを常に意識した対応をしている。 ・日々の振り返りでひろばの様子を共有、対応に困ったときもみんなで考え次に活かしている。 ・多様な方が集う場所としてのきっかけやつながりづくりを目的として、テーマ別語り合いイベントを開催している。(はじめてのとことこ、多胎ママ交流会、兄弟児の子育てについて語ろう、多文化ママ交流会) ・「発達に不安のあるママ同士で話しましょう」、「ふわふわ(個別支援学級に通うママ同士で話しましょう)」「にこまーの会(口唇口蓋裂のお子様を持つ保護者の方々同士で話をする会)」などは拠点休館日や研修室を利用する事で、通常のひろばには行きづらさを感じている親子の居場所になっている。 ③【拠点利用者アンケートやとことこポストをもとに利用者の声やニーズを区と共有し、ひろば運営に反映】 ・毎年行っている拠点利用者アンケートを分析し、区と利用者のニーズを把握。ひろば運営に活かしている。 ・とことこポストに届けられた声や利用者ニーズ、ひろばで受けた相談に関しては、いったん職員間で共有し、協議をした上で答えを見いだしている。回答に関しては、ひろばへの掲示やとことこ通信に掲載し、広く周知している。 ・養育者のニーズに合わせ、コーナーごとに過ごす子どもの月齢に合わせた情報を掲示・配架している。 ④【オープンスペースの利点を活かした成長の見通しの場】 ・赤ちゃんコーナーでは安全面を最優先にし、子どもの月齢・年齢に応じたひろばのゾーニングをすることにより、子どもたちがゆっくり遊び、保護者もゆったり過ごせる空間づくりを行った。 ・職員が利用者同士の橋渡しを行い、他の利用者との関わりの中で子の成長の見通しをたてたり、親同士が話す機会を持つことで、教えてもらう立場から教える立場への転換を促進している。 ・日々の職員との関係性から、利用者自身が発信し、得意分野を生かし拠点の活動を一緒に作り上げている。(コミュニケーションボードの作成、チラシ作成、手作りの会(※1)に参加等)※1:簡単にできるおもちゃや子育てグッズなどを養育者が集まり交流をしながら作成。その際は、ボランティアの方が子の見守りを行っている。 ★【商業施設(アピタ)でのサテライトと同様の位置づけ】 ・とことこまで来られない方や、拠点との接点が無かった方に向けて、区内商業施設(アピタ金沢文庫支店)で週3回職員が出張している。子育て相談、情報提供、参加者同士のつなぎ等、拠点のサテライトと同様の位置づけとして定着している。 【外遊びの大切さを伝え続ける「お外であそぼう」】 ・乳幼児期の外遊びの大切さを区をあげて伝え続けている。「お外で遊ぼう」では、区内10ヶ所、50回公園に公園サポーターが出向き、外遊びのサポートをしている。公園サポーターがいることでその日を目指して参加する親子もおり、外遊びを通じた交流の場になっている。育児教室とのタイアップにより、育児教室から外遊びへつながるように工夫している。</p>			

評価の理由(区)

- ①・利用者が拠点に良いイメージを持って訪れられるように、母子手帳交付時、両親教室、こんにちは赤ちゃん訪問、育児教室、乳幼児健診等や、日々の訪問などの機会を利用して、拠点の様子や雰囲気も含めて積極的に案内した。また子育て支援関係者に対しては、主任児童委員連絡会やこんにちは赤ちゃん訪問定例会などで拠点の紹介を行った。
 - ・プレパパ・プレママ教室を拠点で開催することで、妊娠期から拠点に来所できる機会になっている。
 - ・乳幼児健診や子ども・家庭支援相談等で、親子で遊びに行ける場所の相談があった場合、拠点を案内した。
 - ②・訪問や相談等で、双胎児や外国籍、発達の遅れ等の個別性の高い相談があった場合は、拠点で実施する各交流会を案内し、参加を促した。
 - ③・乳幼児健診や個別支援の必要な対象者、地域のサロンや支援者から把握した子育て世代のニーズや課題を定例会で共有した。
 - ④・居心地の良い雰囲気づくりや、安全面を考慮した環境整備など、拠点は独自に工夫できており、区は相談があった時などに対応し、確認しながら取り組んでいる。
- ☆・拠点に行くことが困難な人へは、アピタの「金沢区気軽に子育て相談」を紹介。アピタでも「子育て相談」を拠点と同様受けられることを周知している。とことこの認知率が9割を超えるのに対して、アピタでの「金沢区気軽に子育て相談」認知率は5割弱とおおよそ半数にとどまっているため、さらに周知していく必要がある。
- ・育児教室の外遊びの回と拠点が実施する「お外で遊ぼう」の日程を合わせ、育児教室参加者に外遊びの大切さだけでなく、次につながる機会をつくっている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・利用者の状況、ペースを尊重し丁寧に関わる事で、職員と利用者との信頼関係を築くことができている。
- ・多様性を認め合うひろばとなるよう意識した運営を行っている。「みんなが同じ空間」にいられる事を大切にしている一方で、休館日を利用した「個別性」も大切にしている。
- ・アピタ「金沢区気軽に子育て相談」や「お外で遊ぼう」を実施することで、とことこに来られない方々に向けて、相談対応や情報提供をおこなっている。とことこの認知度も上がり、目指して来てくれる方も増えてきた。

(課題)

- ・親自身の育ちとして、自身の子以外の育ちにも目を向けられたり、いずれは地域での担い手として成長できるような力をつけていけるような関わりが必要。職員が利用者との関わりの中でどこまで力を引き出すことができるかが課題である。
- ・多様な親子を受け入れるにあたって、瞬時の判断やチームワークなど、拠点のスタッフのスキルアップが求められている。
- ・アンケートではとことこが遠いとの声が多く聞かれる。とことこから遠い方も来られるよう、アピタ「金沢区気軽に子育て相談」を実施しているが、とことこの認知率が9割を超えるのに対して、アピタ「金沢区気軽に子育て相談」の認知率は5割弱とおおよそ半数にとどまっているため、さらに周知していく必要がある。
- ・多様な養育者とこどもに利用してもらえるよう、周知方法等を検討していく必要がある。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気づき、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・合同研修は広場のニーズを聞きながら実施することができた。より積み上げる形で内容を工夫できると良い。 ・区との継続した支援についてギャップを埋めるために、カンファレンスの有効活用も含め、今後の情報共有を密にしていける必要がある。(カンファレンスの運営方法の改善等)	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A
評価の理由(法人)			
<p>【相談件数】 H29年度 ひろば相談→1,884件 専門相談432件(助産師→121件・小児科医→61件・保育・教育コンサルジュ→71件・保育士→46件・栄養士→79件・薬剤師→32件・発達→22件) H30年度 ひろば相談→1,311件・専門相談419件(助産師→123件・小児科医→61件・保育・教育コンサルジュ→72件・保育士→41件・栄養士→55件・薬剤師→17件・発達→50件) 【拠点利用者アンケート】スタッフや他の保護者、専門相談日に相談することで、子育ての不安や悩みの解消につながった→72%</p>			
<p>①【利用者との信頼関係に基づく相談対応】 ・ひろば職員は利用者の利用頻度や来所した時の様子を察しながら距離感を大切に、信頼関係を築くように努めている。ひろばで相談を受けた際は、利用者に寄り添い傾聴の姿勢で対応するよう心がけている。 ・子育てに関する不安や困り事の相談を受けた際は、職員や他の利用者同士の対話によって不安が軽減できるよう努めている。 ・専門家相談日を設けることで養育者の不安の軽減及び職員の相談対応スキルアップにつながった。 【多様な利用者に対応できるよう日々の振り返りでの情報共有と定期的な職員研修の実施】 ・日々の振り返りの中で、ひろばの様子、相談対応に加え、横浜子育てサポートシステムのコーディネートの様子や横浜子育てパートナーの相談内容についても共有し、相談者を多角的にとらえ、多様化する相談ニーズに対応できるようにチームとして取り組んでいる。 ・同法人が運営している、中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」や金沢区内にある「親と子のつどいのひろば」との合同研修を定期的に開催。研修テーマに関しては振り返りの様子やつどいのひろばとの協議により決定し、日々の業務に活かしている。</p>			
<p>②【拠点の役割(つなぐ)を踏まえた関係機関との連携】 ・区と定期的に「相談共有会議」を開き、相談内容の共有と対応についての確認をおこなっている。 ・ひろばでの相談対応に活かせるよう、保健師による講話(ワンポイント育児アドバイス)をおこない、職員の共通理解をおこなった。 ・関係機関(主任児童委員、幼稚園園長会、保育園園長会等)には定期的に参加し、顔の見える関係を継続している。 【親同士のピアサポートによる対応】 ・「発達に不安のあるママ同士で話しましょう」、「ふわふわ(個別支援学級に通うママ同士で話しましょう)」「にこまーの会(口唇口蓋裂のお子様を持つ親の会)」などを通じて、当事者同士の分かち合いや情報共有の機会となっている。</p>			
評価の理由(区)			
<p>①・定例会や相談共有会議の場を利用し、拠点での相談内容の共有を行い、対応方法や情報提供等の助言を行った。 ・拠点職員向けの講話(乳幼児健診、感染症、養育支援など)を行い、相談対応のスキルアップを図った。 ・母子手帳交付時、両親教室、育児教室、こんには赤ちゃん訪問などの機会を利用し、拠点の相談機能について周知を行った。 ②・拠点で相談のあった継続支援が必要な人が、区保健師やケースワーカー、区の事業につながるができるよう、相談共有会議や電話等で各地区担当と密に情報共有し、役割分担を確認しながら個別支援を行うことができた。 ・相談共有会議がより有意義な時間となるよう、対象者について、事前に区での関わりや情報を調べてから会議に臨んだ。</p>			
拠点事業としての成果と課題			
<p>(成果) ・利用者との日常的な関わりの中で、個々への距離感を大切にしながら相談対応に努めた。相談をきっかけに他の利用者同士をつなぐ場合もあり、職員や他の利用者同士の対話によって不安が軽減できた。 ・区との相談共有については、共有の仕組みを明確にし、より連携しやすい環境となった。 ・日々の振り返りの中で、ひろば相談だけでなく、横浜子育てサポートシステムや横浜子育てパートナーの状況も共有することでチームとして対応し、拠点全体の相談対応のスキルがあがった。 ・「発達に不安のあるママ同士で話しましょう」の参加者の声から新たに「ふわふわ(個別支援学級に通うママ同士で話しましょう)」が立ち上がった。参加者のニーズに応え、継続した支援につながっている。</p>			
<p>(課題) ・社会や子育てに関する現状の変化に対応できるよう、常日頃から最新の子育ての情報を職員が共有しておく必要がある。 ・養育者や子育てに関する社会の状況が変化する中で、職員の相談の姿勢として、傾聴、共感だけではなく対応の必要性を感じる。 ・利用者アンケートで「不安や悩みが解消に繋がった」と回答した人が72%と高い数値であるが、一方で4人に1人は解消につながっていないと考えられるため、そうした利用者をどう把握し、継続支援をしていくのが課題である。</p>			
振り返りの視点			
<p>ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。 イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。 ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。 エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。 オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。 カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。</p>			

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な情報発信の課題があり、ホームページやメールマガジンを充実させる必要がある。 ・キラキラMAPの編集は拠点が中心となれるとよい。 ・子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民全体に認知されるよう工夫する。 	A	B
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		B	B
評価の理由(法人)			
<p>【とことこホームページビュー数の推移】 H28年度 61,614件/H29年度 72,495件/H30年度121,270件</p> <p>【主なホームページリンク先】 区役所の子育て情報/親と子のつどいのひろば(4か所)/地域ケアプラザ(9か所)/地区センター(5か所)/コミュニティハウス(9か所)/りんごの森/国際交流ラウンジ/発達に不安な親子の居場所(3か所)/金沢区ママ/ママが真ん中プロジェクト/スポーツセンター/スポーツ会館(2か所)/金沢どうぶつ園/子育てタクシー</p> <p>【メールマガジン】毎月1回 平均950通配信。</p> <p>【とことこ通信】2カ月に1回発行。4500部印刷、約180か所に郵送や手渡しにて配架。/配架場所-区内保育園、区内幼稚園、区内病院、区内地域ケアプラザ、区内地区センター、横浜市内の子育て支援拠点、区内つどいのひろば、金沢区役所、横浜市青少年局、J:COM、町内会、子育て支援者、区内商業施設、主任児童委員。</p> <p>【地域子育て支援事業アンケート】 ・「拠点の利用目的は何か」…①親子で遊ぶ76% ②子育て情報を入手する37% ③親と子どもの友達づくり30% ④育児講座や交流会に参加する16% ⑤育児相談12%</p>			
<p>①【とことこホームページの見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区と協議をしながら、とことこホームページを大幅にリニューアルした。区内の子育てに関わっている相手先のホームページにリンクを貼ったことで、利用者が最新かつ正確な情報が得やすくなりホームページビュー数が確実にアップした。 <p>【とことこ通信やメルマガによるタイムリーな情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援課だけでなく、健康づくり係や地域振興課など、他課と直接情報共有をしていることで、とことこ通信への情報掲載もスムーズに行え、タイムリーにひろばの掲示ができ、利用者への周知や啓発につながっている。 ・とことこ通信は年間を通してのテーマを決め、隔月の巻頭ページを作成することで、一貫性のあるメッセージを届けることができている。 ・とことこ通信と一緒にイベント情報も同封し、受け手が必要としている情報を拠点以外の各所でピックアップできるようにしている。 <p>また、メルマガのイベント情報は配信後も随時更新し、常に閲覧できるようにリンクを貼って最新情報が得られるようにしている。</p> <p>【利用者が必要としている情報を見つけやすいようなひろばの情報掲示の整理と工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点在していたひろばの掲示を、カテゴリ別に整理し掲示したことで、利用者が情報を見つけやすくなった。また、最新の情報を掲示する場所を別途作り、リアルタイムの情報を入手しやすくなった。必要時には職員が仲介し、利用者がその時々で必要な情報を得られるようにサポートしている。 ・区役所の乳幼児健診で配布している子育てに関する資料を拠点用にファイリングすることで、ひろばで相談に応える際に活用できるようにしている。 ・発達に関する資料をファイリングして広場で見ることができるようになっていたが、ファイルを手に取るハードルの高さからひろばに掲示する方法に変更した事で、常に見られるようになった。それによって、職員への気軽な問い合わせが増え、発達の会へのつながりがスムーズになった。 ・幼稚園とのネットワークが深まった事で、幼稚園情報の充実ができている。また、職員が地域に出向き、得られた情報をとことこホームページやひろば等で広く発信している。 <p>【キラキラMAPの見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラキラMAPは拠点と区で役割分担しながら、協働で編集を行い、発行している。掲載内容について定期的に協議をしながら、養育者の目線に立った紙面構成とした。 <p>②【拠点の情報機能の認知度アップによる情報の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係機関に対し、拠点の情報提供機能について周知し続けている。結果、保育園、幼稚園、地域等からの掲載依頼が増え、とことこホームページのイベント情報が充実。ページビュー数増につながった。 <p>③【利用者が情報発信の担い手になるしかけづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利用者掲示板」(※1)、「ロコミファイル」(※2)、「ゆずりますコーナー」(※3)等、利用者が情報発信、間接的に繋がれるしかけづくりを行った。※1テーマごとに利用者のアイデアを掲示 ※2ひろば相談で多い、「地域の病院情報」「離乳食のアイデアレシピ」「幼稚園ロコミ情報」等について、利用者からの情報をファイリング ※3ご家庭で不要になった育児グッズ等を他の利用者に譲れるよう掲示。 <p>【子育てサークル情報の提供・周知協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークル交流会などを利用し、拠点の情報提供機能について周知している。子育てサークルのイベントや人員募集について、ひろばに配架するとともに、とことこホームページ等で周知協力。また、「アピタ気軽に子育て相談」時に、子育てサークルの紹介ができる事を周知している。 			

様式1-3 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)
<p>①・区内の子育て情報が集約されたキラキラMAPは拠点と区で役割分担しながら、協働で編集を行い、発行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラキラMAP編集時に、保育園・幼稚園情報を一括で収集し、まとめた情報を拠点に提供し、必要な人に情報が届く仕組みづくりをした。 ・区の情報も拠点のひろばやホームページ等に掲載している。 ・地域子育て支援拠点がより多くの情報を収集できるように、関係機関の会議への参加するための調整をしている。 ・とことこ通信は、毎回発行前に区でも校正確認し、時に掲載記事の提供をしている。 ・感染症等、養育者へタイムリーに情報を提供できるよう協力している。 <p>②・こんにちは赤ちゃん訪問や母子訪問、乳幼児健診や育児教室、各会議等、様々な機会に、拠点で子育てに関する情報を得られることを周知した。また、区役所でもとことこ通信を配架した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベント情報を知りたいという相談があった場合は、イベントカレンダーや拠点に情報があることを伝えている。 <p>③・拠点ホームページの「イベントカレンダー」で情報発信できることを、子育てサークル交流会や地区別健やか交流会の場で、地域の子育て支援関係者や養育者へ周知した。</p>
拠点事業としての成果と課題
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点内での情報の掲示、配架の工夫、ネットワークにより収集できた情報を利用者にわかりやすく発信できた。 ・地域や関係機関からの情報掲載依頼が増え、ホームページビュー数も増えた結果、拠点の認知度も上がってきている。 ・ホームページやメールマガジン等の手軽な情報提供と、紙媒体をもとにしたアナログの手法の両輪で周知が行えている。 ・横浜子育てパートナーと幼稚園、地域の関係施設とのつながりにより、情報が充実してきている。 ・区実施アンケートによると、拠点の利用目的のおよそ4割が「子育て情報の入手」である。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者による情報提供の仕組みづくりは着手しているが、参加を促す工夫が必要。 ・拠点事業やその内容を区役所内でも共有できていない部分があり、担当者とそうでない職員で伝えられる情報に差があるため、養育者等へ同じように情報を伝えられるよう、共有していく必要がある。 ・多様な養育者と子どもにも利用してもらえるよう、周知方法等を検討していく必要がある。 ・保育園の情報を今後充実させていく。
振り返りの視点
<p>ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。</p> <p>イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。</p> <p>ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。</p> <p>エ ささまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。</p> <p>オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。</p> <p>カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。</p> <p>キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。</p>

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・ネットワークを生かして関係機関や支援者同士の関係をさらにつないでいくことが必要。 ・拠点スタッフ間、拠点と区とのネットワークに対するイメージのズレをコミュニケーションで埋めていくことが必要。	A	B
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>【地域訪問】・子育てサロン→24ヶ所・幼稚園→14園 【会議出席】主任児童委員会定例会、公私合同園長会、幼稚園園長会、要保護児童対策連絡会、学校・施設との連絡会、分娩取り扱い連絡会 【健やか子育て連絡会構成メンバー】民生委員、主任児童委員、保健活動推進員、子育て支援者、幼稚園、保育園、地域ケアプラザ、親と子のつどいのひろば、養育者代表、地域子育て支援拠点 【いきいきフェスタ】ぼたんちゃんこどもエリア健やか子育て連絡会ブース来場者数→800人以上 【外遊び応援キャンペーン】 参加人数182組 (23回)</p> <p>①【金沢区の子育て支援ネットワーク事務局を担当】 ・健やか子育て連絡会の事務局の役割を区、区社協、拠点3者で担っている。事務局の中の拠点の役割として研修会、いきいきフェスタ、外遊び応援キャンペーンを開催している。 ・健やか地区別交流会で施設長とともに拠点職員も同席し、地域のニーズや課題を共有した結果、区内のつどいのひろばと共催で「外遊び応援キャンペーン」を実施。地域ぐるみでの子育て支援の輪が広がった。さらに、健やか子育て連絡会で上がったニーズ「外遊び」をテーマとした講演会&シンポジウムを金沢区制70周年事業として実施し、広く区民に向けて外遊びの大切さを伝えることができた。 ・金沢区民まつり(いきいきフェスタ)の「健やか子育て連絡会ブース」を実行委員会形式で出展。実行委員会事務局の役割を担っている。実行委員の方々と企画・当日の運営を行い、お互いの関係性がより深まる機会となった。当日は、親子向けのエリアとして、保育園・主任児童委員のブースと協力し、ぼたんちゃんこどもエリアの運営を行った。 【法人変更にとまなう、地域とのネットワークの再構築】 ・初年度は施設長、2年目は職員が地域のサロンを訪問。地域の様子を知ると共に、支援者との顔の見える関係を構築した。特に幼稚園との関係づくりの成果として、「はじめまして♡幼稚園(幼稚園説明会)」を拠点で開催できた。 ・年度初めに地域ケアプラザコーディネーター会議で挨拶し、横浜子育てサポートシステム、横浜子育てパートナー、子育て情報の発信について説明し、それぞれ連携を行っている。</p> <p>②【拠点が地域の入口に】 ・地域のサロン、幼稚園、関係機関などに訪問し、それぞれの特色、雰囲気や参加者の様子などの情報を提供することで、拠点利用者が地域を知るきっかけとなるよう、橋渡しをしている。 ・拠点の事業を地域で活動している養育者と一緒に行い、興味のある利用者をグループに紹介し活動の輪が広がった。(「多文化ママ交流会」。「ふわふわ(個別支援級に通うママ同士ではなしましょう)」)</p>			
評価の理由(区)			
<p>①・健やか子育て連絡会の事務局として、子育て支援に関わる方々と、課題や現状を共有する場の運営、課題解決に向けた取り組みを連携して行った。また、健やか子育て連絡会の各地域で出た意見や課題から、研修会や外遊びキャンペーンなどを事務局として企画、協働して行った。 ・金沢区の障害者地域自立支援協議会のメンバーに拠点が入るよう調整することで、区内の障害児支援に関わる方々とのネットワークづくりを行った。</p> <p>②拠点利用者が保育園情報を得やすくするため、区の育児支援保育士が保育園情報を集約し拠点に提供している。また幼稚園とはこれまであまり関係性を構築できていなかったが、調整を重ね、拠点とともに園長会に参加できるようになった。また保育・教育コンシェルジュが拠点職員とともに幼稚園を訪問し、拠点と幼稚園の関係づくりを後押ししている。</p>			
拠点事業としての成果と課題			
<p>(成果) ・健やか子育て連絡会での役割や地域訪問等により、地域とのネットワーク構築の一步を踏み出すことができた。 ・幼稚園との関係づくりにより、拠点内で「はじめまして♡幼稚園(幼稚園説明会)」を開催できた。 ・関係機関との顔の見える関係作りを構築し、お互いの役割を理解しながら関わることができた。 ・ネットワークの成果として、地域の情報が充実。利用者が地域を身近に感じられるような橋渡しをしている。</p> <p>(課題) ・今後は保育園とのネットワークをより強化していく。 ・地域や団体関係機関とのネットワークの中で、お互いの立場や役割を理解し続けることが求められる。 ・何の為のネットワーク構築なのか、原点に戻り確認しながら構築していくことで関係性を深めていく。 ・拠点と地域や関係機関との双方向のネットワークを深めるとともに、地域や関係機関の方が拠点事業の発信者となってもらえるような取り組みを構築していく。</p>			
振り返りの視点			
ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。			
イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。			
ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。			
エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。			
オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。			

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・ボランティア養成講座を受講した人たちが、広く地域につなげること。 ・これから子育て当事者となる方たちへの働きかけとしては、拠点と区がさらに連携していけると良い。 ・日々の事業の中で、人材育成や活動支援につながる要素は多くあるので、意識しながら事業展開していく。	A	B
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	C
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>【健やか子育て連絡会研修会・講演会】H29年度「地域のみんなで防災を考えよう」●講師あんどう りすさん●参加人数83人 H30年度「乳幼児期の外遊びの大切さ&ミニシンポジウム」●講師大豆生田啓友さん●参加人数320人</p> <p>【ボランティア活動件数】H29年度 186件 / H30年度 271件 【ボランティア説明会参加人数】H30年度 18人(内、登録者 14人) 【学生受入人数】H29年度 66件 / H30年度 70件 【子育てサークル支援】サークルリーダー全体会・地区別交流会(富岡西・能見台地区、釜利谷地区、六浦地区、金沢地区、富岡東・並木地区) サークル数→H29年度 17/H30年度 15 【プレパパ・プレママ教室参加人数】H29年度 152組 / H30年度 166組 【タッチケア参加人数】H29年度111組 / H30年度102組 【アンケート】</p> <p>【地域子育て支援事業アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とどこでボランティア募集をしていることを知っているか」→「知っている」8%、「知らない」92% ・「とどここのボランティア活動に参加したいと思うか」 →「したいと思う」1%、「自分の子育てが落ち着いたら考えたい」41%、「したいと思わない」58% ・「とどここを利用し満足・やや満足の方はボランティア活動に参加したいと思うか」 →「したいと思う」2%、「自分の子育てが落ち着いたら考えたい」54%、「したいと思わない」44% 			
<p>①【地域の担い手や養育者のニーズに合わせた勉強会・研修会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健やか子育て連絡会にて課題としてあがった「外遊び」をテーマとした研修会・シンポジウムを開催した。外遊びに関しては、区内のつどいのひろばと共催で「外遊び応援キャンペーン」を実施。地域ぐるみでの子育て支援の輪が広がった。(再掲) ・横浜子育てサポートシステム提供会員向け「緊急救命講習会」にひろばのボランティアにも呼びかけ参加につながった。 <p>【ボランティア活動を支える継続したフォロー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろばボランティアの方々が生き生きと活動できるよう、職員は日々の声かけと配慮を欠かさずに行っている。 ・公園サポーターがスムーズに活動できるよう、定期的に連絡をとり、備品(シャボン玉や牛乳パックのジャバラなど)や配布物の確認やシフト調整を行っている。また、当日は、定期的にスタッフが現地に出向き、話を聞くことで、それぞれの公園の状況を把握し、活動が順調に進むよう支援している。 ・公園サポーターの定例会を年4回開催。日頃の活動について共有や相談をする事でそれぞれの活動に活かされている。 <p>②【子育て応援ボランティア説明会によるボランティアの入口と地域の方々が拠点につどいをつなげる創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろばの見守り、公園サポーター、横浜子育てサポートシステム提供会員の3つの活動を紹介する「子育て応援ボランティア」説明会を毎月開催し、ボランティア増員につながった。地域で活動されている方々に拠点で活動を披露してもらう機会を設けた事により、地域の方が拠点に足を運んでいただくきっかけとなった。 <p>【子育てサークル活動を通じた地域へのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動を通じて、養育者自身が地域で活躍できるよう応援している。また、子育てサークルリーダー全体会、地区別交流会で活動の課題を共有し、解決に向けた情報交換をすることで、子育てサークル活動の継続を支援している。 ・地域で活動している養育者の情報をひろばの掲示やホームページで発信している。 <p>③【地域で子育てのニーズや課題を共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健やか地区別交流会や地域の会合などを利用し、養育者の現状や子育ての課題などを共有している。 ・いきいきフェスタ(「金沢区民まつり」)で、子育て関係のブースが連携し、子育て家庭が安心して過ごし楽しめる工夫や、地域全体が子育て家庭を応援していることが伝わるよう子育て支援の取り組みの周知を行った。 <p>【学生の定期的な受入・シニア世代のボランティアとの自然な交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の職業体験やボランティア、学生の実習の受入を積極的に行っている。又、シニアボランティアの受入も継続して行っており、自然な形で多世代交流が生まれている。 <p>④【プレパパ・プレママへの支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレパパ・プレママ教室を月2回定期的に開催。山本助産院協力のもと、助産師による沐浴指導、妊婦体験、抱っこや着替えの練習をおこなっている。加えて、同時間で開催しているタッチケア参加者との交流の時間を設けている。グループに分かれて、先輩ママ・パパの話を聞いたり、実際に赤ちゃんを抱っこしたり、会の最後には、プレパパとプレママに分かれて体験談を聞くことで、出産・子育てのイメージづくりや不安を解消する場にもなっている。 ・タッチケア参加者が先輩パパ・ママとして自身の経験を話すことで、親としての自信につながっている。 			

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ①・健やか子育て連絡会の全体会・研修会・地区別交流会において地域の課題を共有し、方針の検討を通して子育て支援の担い手の意向上やスキルアップにつながるよう支援した。
- ②・子育てサークルの交流会(全体会・地区別)を拠点・区・子育て支援者でともに開催し、子育てサークルリーダー同士がつながり、活動の幅が広がるよう支援を行った。また、育児教室等で子育てサークル周知の場を設けた。
- ・拠点と区で区社会福祉協議会のボランティアセンターに行き、ボランティア募集についての説明を行い、チラシを置かせていただいた。子育て支援のボランティアに関心のある人を拠点につなげていただいた。
- ・「とことひろば」「公園サポーター」「横浜子育てサポートシステム提供会員」のボランティア募集について、広報よこはまで周知を行ったが、不十分であると考えられるため、今後も広報よこはまへの掲載や区事業内での周知を行っていく。
- ③・民生委員や保健活動推進員の定例会の日程を伝え、拠点が一緒に参加できるよう調整を行った。
- ・金沢区の子育ての現状や課題を、各地区の民生委員や保健活動推進員の定例会、健やか子育て連絡会地区別交流会の場で伝えている。
- ・いきいきフェスタで、子育て関係のブースが連携し、子育て家庭が安心して過ごし楽しめる工夫や、地域全体が子育て家庭を応援していることが伝わるよう子育て支援の取り組みの周知を行った。
- ④・母子手帳交付時に、両親教室、プレパパ・プレママ教室についての周知を行った。妊娠期より拠点を知らえるよう、「とことこ見学ツアー」を企画し、両親教室に来た方に手紙で案内を送ったが、希望者が少なく、方法の検討が必要である。
- ・母子保健コーディネーターがプレパパ・プレママ教室の見学、拠点スタッフが両親教室の見学を行い、相互の理解と連携が深まるように調整を行った。
- ・看護学生実習を拠点に受け入れてもらい、学生が子育て家庭と触れ合う機会を設けた。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・健やか子育て連絡会の全体会・研修会・地区別交流会において、地域の課題を共有し、方針の検討を通して担い手の意向上につながった。
- ・毎月「子育て応援ボランティア説明会」を実施し、ボランティアの増員に繋がった。利用者としニアボランティアとの多世代交流が自然な形で生まれている。また、地域で活躍される方々に拠点で得意なことを披露してもらうことで、地域の方々に足を運びきっかけとなった。更に、つどいのひろばと協力し「外遊び応援キャンペーン」を実施した事で子育て支援の輪が広がった。
- (課題)
- ・ボランティアとして関わってくれる方は増えたが、ボランティア同士の交流や学びの機会を提供するまでには至らなかった。
- ・地域子育て支援事業アンケートで、拠点でボランティア募集をしていることを知らない人が92%であり、区事業内や広報等で伝えていきたい。
- ・子育てサークル数が減少しており、地区別交流会で各子育てサークルの課題を共有し、子育てサークルの継続について共に考えていく必要がある。
- ・乳幼児期に親同士の支え合い・助け合いの経験ができるよう、ひろば事業の中でも意識していく。
- ・拠点を利用し満足している人は、ボランティア活動に「自分の子育てが落ち着いたら参加したい」と回答している人がやや多くなっていることから、まずは拠点を利用してもらい、満足してもらえるよう心掛ける。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入会説明会や事前打ち合わせでお話し預かりを周知し、ひろばで双方が安心して利用できる工夫をする。 ・活動件数を増やす必要がある地域では、利用会員増を見込める企画を行い、提供会員を増やす必要がある地域では積極的に周知をする。 	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		B	A
評価の理由(法人)			
<p>【活動件数】H29年3,666件／H30年度3,724件 【援助活動を利用した延べ人数】H29年度606人／H30年度612人 【援助活動をした提供会員延べ人数】H29年度515人／H30年度523人 【会員数】H29年度 利用会員→447人 提供会員→118人 両方会員→35人 合計→600人 H30年度 利用会員→476人 提供会員→129人 両方会員→31人 合計→636人 ・横浜子育てサポートシステムがきっかけになり区と情報共有した件数→17件。実際にサポートにつながり、継続支援のケース→10件 ・とこと利用者アンケート「子サポについて知っている」-84%</p>			
<p>①【地域特性を活かした周知活動と区との連携による計画的な周知活動の両輪】 ・提供会員の高齢化が進む並木地区や、提供会員数が少ない六浦地区を中心に提供会員増を目指し、エリアを絞って周知活動をおこなった。特に、並木地区は地域の方が横浜子育てサポートシステムの良さを理解してくださり、自主的に入会説明会の計画をし、開催できている。 ・区と連携し、小中学校校長会・PTA連絡会での周知を定期的に行った結果、区内6校にチラシを全生徒数配布する事ができた。 ・地域ケアプラザからの繋がりや、幼稚園で全園児に向けてチラシを配布する事ができた。また、同幼稚園からの要望を受け、先生方を対象に、入会説明会を開催することで、制度を知っていただくことができた。それにより、先生から園児の保護者に向けて正しい情報を伝えるようになった。 ②【ひろばや商業施設での養育者に向けたPR・状況に合わせた個別対応】 商業施設(以下アピタ)や、育児教室、子育てサロン等、養育者が集まる場所での周知を行っている。実際の利用について等、詳しく説明を行った。また、緊急に支援が必要な場合は、事情に応じて、都度こまやかに対応し、スムーズな利用につなげている。 ③【ひろばや商業施設での養育者に向けたPR・状況に合わせた個別対応】 ・制度の入口である「入会説明会」において、横浜子育てサポートシステムが「地域の支えあい」であることを説明。事前打ち合わせには全てコーディネーターが同席し、提供会員・利用会員双方が不安がないように、細かな事も確認。双方の信頼関係づくりを丁寧に行っている。 ・区の要支援家庭のサポートをしている提供会員には、定期的に連絡を取り合い、提供会員の精神的な負担にならないよう配慮している。 ・全会員対象の交流会を定期的で開催している。利用会員にとっては、提供会員と知り合う機会となり、提供会員にとっては、活動の情報交換をする場となっている。 ④【区と連携した家族支援】 ・毎月の区との会議で定期的に横浜子育てサポートシステム利用会員の家庭状況を共有。必要に応じて区が把握している状況をもとにコーディネートを行った。また、継続サポート中の親子の状況についても都度確認をしながらサポートを行っている。 ・横浜子育てパートナーや母子保健コーディネーターとつながったケースもあり情報共有しながらサポートを行っている。 ・両方会員から地域の虐待が疑われる案件に関する相談を受け、連絡先の情報提供をした。合わせて、区にも情報提供を行った。</p>			
評価の理由(区)			
<p>①拠点が小中学校校長会・PTA連絡会で横浜子育てサポートシステムの周知ができるよう調整を行った。 ② 母子手帳面接、両親教室、乳幼児健診や育児教室、こんには赤ちゃん訪問の場面を活用し、養育者へ横浜子育てサポートシステムを周知するとともに、事前登録を呼びかけることで、必要な時に早くサポートにつながれるようにした。 ③ 定例会に参加し課題の把握につとめ、提供会員や利用会員にとって適切なサポートとなるよう助言を行った。また横浜子育てサポートシステムコーディネーターの負担が大きくなるよう助言や支援を行った。 ④ 専門的対応や配慮が必要なサポートに対しては、保健師やケースワーカーとも現状をすり合わせることで、互いの役割を確認し、提供会員がサポートを継続できるよう努めた。</p>			

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・日々の振り返りで、ひろば・横浜子育てサポートシステム・横浜子育てパートナーの情報共有を行っていることで、横浜子育てサポートシステムの状況についても職員全員で共有。今まで以上に横浜子育てサポートシステムについての理解が深まり、ひろばでの周知に繋がった。
- ・コーディネーターが事前打ち合わせに全件同席した事と、きめ細かくコーディネートする事で、提供会員・利用会員双方の継続的なサポートにつながった。
- ・横浜子育てサポートシステムが支援の入口となった利用会員について、区と情報共有し、家族支援につながっている。
- ・特に支援が困難な家庭のサポートに関しては、定例会の場で、区と横浜子育てサポートシステムのそれぞれの見立てを共有し、早期の支援につなげることができた。

(課題)

- ・問題を抱えている家庭の支援について、複数の問題が整理されないまま横浜子育てサポートシステムを紹介される案件がある。区とどこ(子育てサポートシステム)の役割について、すみわけが必要である。
 - ・公的支援を受けられない家庭をどう支援していくか協議していく事が課題である。
- また、実際にサポートを行っている提供会員が、地域住民として、どの程度の関わりをもつのかも大きな課題である。
- 最初にサポートが必要である状況を区が把握して横浜子育てサポートシステムに依頼する場合、横浜子育てサポートシステムに依頼する内容と区で支援する内容について整理をしたうえで、横浜子育てサポートシステムにつなぐ必要がある。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていますか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていますか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・地域の中や拠点の中で横浜子育てパートナーとして役割をどのように担っていくか、区と密に連携をとって検討していく必要がある。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	B
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育てに関する関係機関や地域の社会資源との協働の関わりを行っている。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>【主な訪問先】 子育て支援者会場(8か所)、「発達に心配のあるお子さんとご家族のための子育て応援マップ掲載団体(13か所)、金沢養護学校、金沢国際交流ラウンジ、かもめ教室親の会、青少年の地域活動拠点「カナカツ」、里親スキルアップ研修、LITALICOライブ、神奈川県立こども医療センター、横浜医療福祉センター、区内児童発達支援事業(3か所)・地域子育てサロン(36か所)・育児教室、幼稚園(14園)、区の事業(乳幼児健診・母親教室・離乳食講座・親子教室)・児童家庭支援センター、病児保育室、訪問看護事業所、放課後等デイサービス・区社協移動情報センター</p> <p>【相談件数の推移】 H29年度 531件 /H30年度 649件</p> <p>【横浜子育てパートナー認知度】 拠点利用者アンケート「横浜子育てパートナーについて知っていますか？」(H29年度38.5%→H30年度43%) ・地域子育て支援事業アンケート「横浜子育てパートナーを知っているか」→知っている:24%、知らない:76%</p> <hr/> <p>①【あらゆる機会や媒体を活用した周知】【ひろば職員からの正しい情報による周知】 ・「横浜子育てパートナー専用チラシ」を作成し、地域の子育てサロン・育児教室、などあらゆる機会でも周知している。また、金沢区子育て情報冊子「キラキラマップ」、とことこホームページ、とことこ通信での横浜子育てパートナー特集などの媒体も活用。新規利用者への対応や拠点事業の中で職員から直接利用者支援事業の説明をしている。地道な周知活動の結果、拠点での認知度もあがった。</p> <p>②【横浜子育てパートナーだけでなく拠点職員がチームとして支援】【関係機関との迅速な情報共有】 ・相談後、親子をひろば職員につなげた後は、横浜子育てパートナーと職員との信頼関係から、親子を見守り、養育者と職員、養育者同士の関係に広げていけるように、後押ししている。 ・養育者が横浜子育てパートナーに相談をしている間、安心してゆっくり相談できるよう親子をひろば職員が見守っている。予約が入っている方に関しては、朝のミーティングで職員に情報共有し、体制を整えて対応している。また、日々の振り返りでは相談内容や子の様子を職員間で共有。多角的な視点でチームとして対応している。 ・日々の振り返りや定例会で横浜子育てパートナーの活動を伝えることで、職員の理解も深まり、相談対応が共有しやすくなった。 ・毎月の相談共有会議で横浜子育てパートナーが相談を受けた案件を区に報告。対応についても共有している。また、緊急性の高い相談者は直接地区担当保健師につないでいる。 ・保健師はもとより、地域や関係機関との顔の見える関係を構築した事で、相談者を迅速につなぐことができた。</p> <p>③【相談者のニーズに合わせ、計画性をもった地域訪問】 ・相談者と関わる中で把握したニーズをもとに、地域や関係機関との継続的なつながりを保持し、さらに、新たな関係性を構築している。</p> <p>【相談内容に応じた地域資源の開拓とネットワークの構築】 ・発達に関する相談増加に伴い、児童発達支援事業所や、地域の障がい関係の団体を訪問。団体同士の横のつながりの必要性を双方が認識し、横浜子育てパートナーが呼びかけ、団体同士のネットワーク(名称「発達支援つながりワークてくてく」)を発足することができた。 ・区の協力のもと、「金沢区障害者地域自立支援協議会」に拠点として参加できた。関係機関の方々と顔の見える関係を構築できた。 ・横浜市南部地域療育センターとのつながりから、拠点やつどいのひろばの職員研修として、療育センターのケースワーカーから療育センターのしくみについて直接話を聞くことができた。拠点やつどいのひろばの利用者の中には発達に不安を抱える方・療育センターに通っている親子もいることから、今後の拠点やつどいのひろばの職員の支援の幅が広がるきっかけとなった。 ・幼稚園の定期的な訪問や、園長会の出席により、幼稚園との関係性が深められた。結果、横浜子育てパートナー相談の共有について、幼稚園園長会で相談し、各園と直接共有できるしくみが構築された。</p>			

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ①・母子手帳交付時、両親教室、育児教室、こんにちは赤ちゃん訪問などの機会を利用し、利用者支援事業についての周知を行った。また、主任児童委員連絡会やこんにちは赤ちゃん訪問定例会などの場でも周知を行った。地域子育て支援事業アンケートによると、横浜子育てパートナーの認知度は約24%(H30年)となっており、今後も周知が必要である。
- ②・毎月の相談共有会議など定期的に事例の情報交換を行い、助言や協力を行った。
・拠点で相談のあった継続支援が必要な人が、区保健師やケースワーカー、区の事業につながるができるよう、相談共有会議や電話等で各地区担当と密に情報共有し、役割分担を確認しながら個別支援を行うことができた。
- ③・金沢区障害者地域自立支援協議会、要保護児童対策地域協議会、健やか子育て連絡会に横浜子育てパートナーが入って関係づくりができるよう協力を行った。
・横浜子育てパートナーが区事業の見学に入れるよう、調整を行った。(親子教室、乳幼児健診、両親教室、離乳食教室など)

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・区や関係機関との関係構築により、相談者を必要な機関につなぐことができた。
- ・横浜子育てパートナーの受けた相談を拠点職員と共有していることで、チームとしての対応する風土ができた。
- ・「発達支援つながりワークてくてく」の一步として、「発達に不安を抱えている親子を支えあう居場所」の一覧を掲載したチラシを作成することができた。チラシの効果として、メンバーが主体となり、療育センターや小学校の個別支援級保護者会、幼稚園、放課後等デイサービス等に配架できた。周知が広がることで、発達に不安を抱えている養育者の選択肢が広がった。

(課題)

- ・今までの顔の見える関係から次のステップとして、利用者支援事業について、横浜子育てパートナーが直接出向いて周知するだけでなく、地域や関係機関の方から正確に紹介してもらえるようなネットワークが必要。
- ・ネットワークで知り得た情報を横浜子育てパートナーだけでなく、拠点職員から利用者へ正確に伝えていけるような、共有の工夫をする必要がある。
- ・発達に関する相談増加に伴い、就学児の相談も増えてきている。就学児の相談は今後も増え続けていく傾向にあるので、拠点としての柔軟な対応と、拠点・区・小学校がどう連携していくかが今後の課題である。関係機関との連携や地域資源の開発を検討していく。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。